



図書館だより

読書月間特別号
第1弾

図書委員会では、6月いっぱい「読書月間」としています。今号は、3年生の図書委員から皆さんにお薦めする本第1弾をご紹介します。図書館にある本も紹介されているので、是非、読んでみて下さいね

3-2 加藤 美紅

『アイヌ、暮らしの民具』 萱野 茂、清水 武男著
アイヌの衣食住について書かれています。民俗学に興味がある人、装飾品、生活文化に興味がある人は、読んでみて下さい。服の模様(アイヌ模様)や彫刻がとてもきれいです。



3-7 助川 喬士

『獣の奏者』 上橋 菜穂子著
リョザ新王国を舞台に、少女エリンが、王獣との絆を深めながら多くの人と出会い、やがて王国の勢力争いに巻き込まれていく。真王と「何故王獣部隊が必要なのか」と話してる場面がおすすめです。



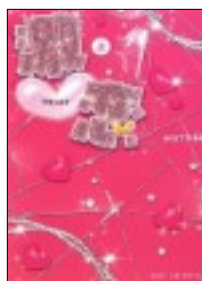
3-5 平藤 翔太

『五体不満足』 乙武 洋匡著
作者の乙武さんは、生まれた時から両手両足がなくかわいそうだと感じていたが、これを読んでみて感想は変わった。乙武さんは「障害は不便だけど不幸ではない」と考えているのだ。そういった乙武さんの生きる力にとっても感動した。



3-6 原 祐貴

『激恋』 みなづき 未来著
父の浮気で男嫌いになった海優。学校の階段で奏とぶつかり、強制的にサッカー部のマネージャーをすることに。男嫌いの海優は果たしてこの先どうするのだろうか!?



3-5 泉 歩真

『ギフト 君に贈る豊かさの知恵』 平野秀典著
いまの、ビジネスのキーワードは「感動」「感激」「感謝」。時代が真に求める成功のカギはこの3つにかかっている! 高校生の僕たちにとってもいろいろ考えさせられる本なので読んで見て下さい。



3-4 鈴尾 悠太

『狼と香辛料』 支倉 凍砂著
人の姿をした狼のホ口と旅の商人口レンスの物語です。商人同士の知恵のぶつかり合いや口レンスの商売を、思わぬ考えで助けるホ口とのやり取りなどが面白いです。



3-2 半井 勇祐

『植物図鑑』 有川 浩著
「俺を拾ってくれませんか?」それがさやかとイツキの出会い。イツキの作る色とりどりの山菜料理。そして徐々に縮まる2人の距離。2人の一途な思いが表れている作品です。



3-7 田所 和三

『テガミバチ~光と青の幻想夜話』 浅田弘幸著
「僕の夢は「BEE」になる事じゃありません。「BEE」になってたくさん大切な「こころ」(手紙)を届ける事が夢です。」...ゴージュ・スエードは目指す。国家公務郵便配達者「ヘッド・ビー」になることを。



3-1 大貝 栗宇

『脳を生かす勉強法』 茂木 健一郎著
脳の仕組みを理解し、脳を最大限に生かし、どうしたら勉強ができるようになるのかが書いてあり、学生なら誰もが一度は読んでほしい本です。



3-6 反町 亮介

『面白いほどわかる世界の神々』 森 実与子著
色々な神話の神々のことが細かく記してあり神話に興味がある人にはとてもおすすめできる一冊です。自分的にはギリシア神話のゼウスがお気に入りです。



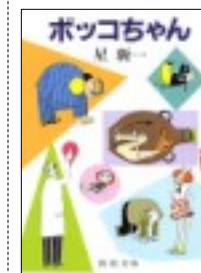
3-3 宮山 由貴子

『きみにしか聞こえない』 乙一著
人と関わりをもたない少女が、誰にも見えない心の中の携帯電話を通じて一人の少年に心を開いていく物語です。映画化もされています。



3-4 小野 健太

『ポッコちゃん』 星 新一著
星新一さんの短編集です。全く結末が予測できない、作者独特の創造性が楽しめます。短編集なので、休み時間などのちょっとした時でも読みやすいと思います。



3-3 柴田 亮子

『ゆきの日』 菊田 まりこ著
この本は大人になった男の人が雪の日をきっかけに、忘れてしまった子供の時の心を思い出していく心あたたまる物語です。季節関係ないでも読めるオススメの一冊です。



3-1 古川 昌奈

『知らないと恥をかく世界の大問題』 池上 彰著
最近、ニュースの解説で人気の池上彰さんの本。本のタイトル通り、今日における世界の問題が分かりやすく書いてあります。これを読めば新聞もすらすらと読めるようになるかも・・・。

